

大阪教育大学

導入の目的

- 大学の講義の情報保障であるパソコンテイクを支援者は別室で出来るようにしたい。
- 教育実習など支援者が同伴することができない場合でも遠隔情報保障を行いたい。
- 交流大学との研修等に遠隔情報保障を実施したい。

運用の詳細

- 使用したシステム
モバイル型遠隔情報保障システム
- T-TAC Caption
- 連携先
本学柏原キャンパス ←→ 大阪府内の小学校など

使用した場面

○教育実習



○学生による模擬授業



利用実績

- 教育実習
Aさん 1日の観察実習を4日
Bさん 4週間の基本教育実習
- 通常学内講義
前期1コマ(1回), 後期1コマ(毎週)
- 学生による模擬授業企画
4回(1回/月の予定)

独自の工夫

支援ルームが中心となり関係部署、実習校と連携しながら支援体制を整えた。

苦労した点

技術的な知識が必要だったが、全領域に詳しい教職員(支援学生)がいなかったため、専門の教員などに部分的にアドバイスをいただいた。

利用学生の声

児童や教員が話していることが瞬時に理解することができて、充実した教育実習生活になった。

支援学生の声

現地に行く必要がないので気楽に支援できた。反面通常の支援では音声以外の情報も取り入れて支援しているのだと改めて感じた。

教職員の声

長期間の大学外の教育実習を支援できて良かった。遠隔でなければ支援を付けることは不可能だった。利用学生自身が「教育実習をやり遂げた」と実感できたことがなにより嬉しかった。

得られた効果

- 支援者が同伴していた教育実習では児童が支援者に話かけをしてしまって、支援利用学生は疎外感をいただいた。遠隔支援では児童とコミュニケーションをとることができ、充実した教育実習になった。
- 離れていてもタブレットの文字を通じてたくさんの人に支援してもらっている実感があつた。
- 手話通訳だと支援できる人が限られているが、支援経験の少ない1年生でも支援することができた。